

HAND in HAND

はんど・いん・はんど

〔隔月発行と事務所閉鎖のピンチです〕

■みなさんにお詫びしなければなりません。事務所の維持がとてつもない困難になっています。毎月の赤字がひどく、私さえ朝から晩まで働けばいいのだからと頑張ってきましたが、残念ながらどうにもできなくなりました。いっそもかもやめようかと思いました。ハンド・イン・ハンドも毎月15万ほどの赤字が続いていますし、離婚110番はゼロ収入ですから、これも赤字が累積するだけ。原稿料や講演料をつぎこんできましたが、国会議員になると、全然そういう時間がとれなくなってしまったのです。

■でも、今月のハンドの校正をしているとき、本当にこのハンドを心待ちにして支えと思ってくださっている人がいることを再確認し、やっぱりやめることなんてできないと思いました。離婚110番も全国から悩みを聞いてほしいと掛かっています。他にもどこにでも110番はあるのだから私がする必要があるのかと何度も悩みましたが、これも何とか続けたい。もちろん月1回のニコニコ離婚講座は、来る人がいる限りやっていきたい……。

■どうしたらいいのかしら。赤字の額が、私には容易に稼げる額じゃないだけに、夜中に眠れずにとび起きては、いろいろ思い悩み、結局、入りを考えずにつつ走ってきた私の経済オンチが招いたことなから悩んでも仕方がないと、しばらく緊縮財政でいくことに決めました。

■千駄ヶ谷の事務所を閉鎖。離婚110番とハンドの会合は池袋の金住典子弁護士事務所の事務所をお借りする。そしてハンドは来年から郵便料金値上げもあるので、増ページをする代わりに隔月発行にさせていただきます。それで何とか月に100万の赤字を半分にすることができると思います。本当に残念で、自分の無力さに死にたい思いです。ご了承とご協力お願いします。（円より子）

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

第152号 250円 禁無断転載

【発行日】1993年11月1日

【発行所】現代家族問題研究所

東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-23-504

〒151 電話03(3402)7354、4385

【発行・編集人】円 より子

【スタッフ】雪野美子、篠原弥生

【印刷】(株)日出島

152

● 11月号特集 ●

ニコニコ離婚講座&ハンド会報紙
150回記念シンポジウム報告(後)

おまかせの老いはもうやめたい

樋口恵子(高齢化社会をよくする女性の会代表・評論家)

150回までいらっしやったこと、おめでとうございます。

さて本題ですが、まずは高齢化社会における女性の位置についてざっとお話ししたいと思います。

最終的結論から申し上げれば、遠い将来に関しては、シングルの女性が社会の圧倒的多数を占めるようになるのだから、そう悲観しなくても大丈夫ということです。

90年の数字で見ますと、単身高齢者65歳以上の人の数は162万3000人で、全人口の約11%となっています。今はこれより若干増えて約170万人、全人口の約12%となるそうです。つまり10人中1・2人の高齢者が独り暮らしをしているということですね。

しかしこれを男女別に見ると、この独り暮らしの率も違ってきます。同じ90年の数字でいえば、65歳以上の女性の14・7%の人が独り暮らし、つまり約6・5人に1人が独り暮らしという結果です。これに対し男性の方の独り暮らしは約20人に1人ちょっと。これだけ違うんで

す。

以前、上野千鶴子さんと「80代になって奥様に先立たれたらどうしますか」というアンケート調査をしたことがあるんですが、これに、地方分権を一生懸命やってらっしゃるある有名な知事さんが、「常々妻に後に残るよう厳命してあります」ってお答えになったんですね。これをみて私たちは「厳命という言葉がここに出てきたことがすごい」とか「厳命しとけばそれでいいと思ってるところがまたすごい」とか、散々肴にしたわけですが(笑)、考えてみれば男性がそういうふうにいるのも、20人に1人しか一人身にならない男の身にしてみれば当然かもしれないですね。6・5人に1人が1人になる女性とは、身につまされる加減が違いますから。

でもその程度しか逼迫感のない男性側が政治を運営している点には問題がありますね。高齢者の独り暮らしの率は今後ますます高まって、最終的にはもう2人に1人

くらいが独り暮らしになっていくでしょうから。現在の欧米諸国をみると、親子の同居が少ないせいでしょう、65歳以上の女性の45%以上が独り暮らしです。親子関係の欧米化が進んでいくとすれば、日本の独り暮らし高齢者の数もやがては欧米並になるはずですよ。

でもそうになったら皆さん、65歳以上の女性というのは有権者の中で絶対多数になります。すると力を持てきます。だから私は遠い将来については悲観しなくていいと言っているんです。未来の日本は「パパ色」の権力によって支配されるからと(笑)。まあこのパパ色を何色にするかは、今後皆さんと一緒に考えていこうと思います。

●女性の年金額は男性の6割弱
ただし将来を明るくするためには、今この時点における現実の辛さ、貧しさというものをしっかり見つけていかなければなりません。

たとえば先程から女性の貧困の問題が出ておりますが、それに就いて考えていくときは年金について考えることも必要です。

91(平成3)年末の数字で見ると、現実にもらっている年金の平均額は男性が17万7672円。こ



▲樋口恵子氏

れに対して女性が9万6809円です。だいたい6割弱。これは男女の賃金格差と本当によく一致しています。現在の賃金格差が100対50、60ですからちょうど同じくらいですね。

でもね、実は女性の中で見てみると、この9万6809円をもらっている人はエリートなんです。厚生年金のあるところに25年間勤め続けて、厚生年金を個人の名においてもらえる人だけなんです。

年金というのは富める者にとっても貧しき者にとっても生活の柱ですが、東京都の調べによれば、女性の年金受給者は90数%、無年金者が約9%となっています。とっても受給者のうちの55・7%、つまり半数以上は国民年金のみの受

給者です。女性で厚生年金をもらっている人が26・7%、共済が4・7%だから、割のいい年金をもらっている人は30%ちょっとしかない計算です。これに対して男性は72%が厚生年金や共済年金をもらっています。

皆さんには年金とはこんなものだとか承知しておいてください。これがずっと継続するんです。

女性の年金権の確立ということで、86(昭和61)年の4月、男女雇用機会均等法が施行されたのとまったく同じ日に年金制度の大改正が行なわれましたが、そこでは逆にある意味での後退が起こりました。はっきり言えば現役サラリーマンの妻の座にいる人に関して利益誘導が行なわれているんです。それまで個人で保険料を払っていた人の保険料をなくし、夫の傘の下に入れてしまったんです。パート年収130万円までは夫の保険料の中で自分の保険料は払わなくていいというふうな。というのも、日本にはシングル女性の差別しようとする構造があるんですね。もう10年以上も前になりますがこういう経験をしました。家を買おうとしたんです。私の土地、私

の家です。パートナールがいますが彼は私の借家人という形です。ただそのときはちょうど子どもの入学と重なってお金が出て、足りない分をローンで借りることにしました。パートナールから借りると税務署に知られますから(笑)。借りにいった先はいわゆるノンバンクですが、私はその親銀行に講演に行ったことがあるしそこから出向いた人が責任者でいる……と、よく知っているとこです。ところが、いざ借りようとする保証人を出せというんです。まあ当時は私もまだ大学に就職しておらずフリーでしたから、ああフリーだと言っぱり保証人がいるんですねと穏やかに言ったんです。すると「いえ、自由業でもこれだけの所得がおありなら普通まったく問題ないんですが、先生が女性でいらっしゃるんです……」って言うんですよ。それで激怒しましてね。「もうそんな金はいらない！」と本当は言いたかったんですが、もう住宅も契約しちゃったんで、説を屈してしまいました(笑)。散々文句を言って。結局、保証人はパートナール、内縁の夫ですが、に頼みました。いいレストランで一食おこ

るからって言って、所得証明を持ってきてもらった。ところがそれを見ると、それまでは知らなかったんですが、所得は私の方が多いじゃありませんか。この矛盾ですよ。私より収入の少ない男の保証人で金融会社は喜んでお金を貸してくれたわけですから。

私はパートナールより自分の方が収入の多いことを心から誇りにしようと思ってるんですが、それは非常に難しい。私はシングルの女性の最大の問題は、こうした構造の下で女性の就労と経済的状況が貧困になっていることではないかと思っています。

●男は見る、女は見るの大違い
でもこのまま黙っていては女が廃ります。私は年金の問題も何も全部「高齢化社会をよくする女性の会」で考えていこうと思っています。皆さんも友好団体なんですから仲良くやっていきましょう。

私たちの会では3年前に「シン・アシングル研究会」という会中会を作り、高齢化社会の中における女性と老いの問題について研究を続けてきています。その結果、一番の問題は、女性が介護の主担い手になっていることだというこ

とがわかりました。現時点で介護の86%を女性が行なっています。

もちろん男の方もやっているケースはあります。そしてそういうケースをいろいろ取材しているうちに素晴らしい夫婦愛に出会って涙ぐむときがあります。やっぱり介護は子どもがするより夫婦間でやった方が絶対いいんです。でも私なんかはこれ、諦めています。

というのも、現在の男女の介護態度を見ていると、はっきり差があるからなんです。夫を介護している妻は、夫と仲がよくても悪くても介護しています。ところが妻を介護する夫というのは、格別情の深い、格別赤い糸で妻と結ばれてるとしか思えない人だけです。つまり男女の間には「男は見る、女は看る」の差があるんですね。大きな違いです。男は「看」ません。「見る」だけ。女って損ですね。格別愛された妻しか夫に看てもらえないんですから(笑)。

病院に勤めてる若い友人に言わせると、それでも病院に見に来る人はまだいい方なんだそうです。見に来てても半径3メートル以内にはなかなか近寄らない。6人部屋だと1メートル以内には近寄らな

い。ベットサイドの片付けもやらない。やるのはもっぱら嫁さん。でも毎晩来て「具合どう?」なんて聞いて手術にでも立ち会えば、「すてきな旦那様ね」って言われるそうです(笑)。女はそれこそお尻まで拭いたって「当たり前」と思われるのね。

私、これはやはり経済問題が深く絡んでるからだと思います。

だからこそ私たちは経済的なことと、年金のこと、いろんなことを今からしっかり見据えていかなければなりません。

●シングル女性は入院できない? 長くなりましたが、最後に私たちのシニアシングル研究会が行なったアンケート調査の結果を簡単にご紹介します。91(平成3)年12月に会員100人を対象に郵送法で実施したアンケートで、回収数353(回収率35%)でした。

結果を見ると、今現に1人という人が20・9%。2人という人がもっとも多く32・6%。2人暮らしの方の相手の大部分は夫です。平均世帯人員は2・7人。ついこの間の国民生活基礎調査でも世帯単位の人数は2・99人と、3人を割り込んでいましたね。

次に独り暮らしでない方に、将来独り暮らしの可能性があるかどうかについて聞いた結果ですが、あと答えた方がもっとも多くて67・7%。まったく無しと答えた方が7・2%でした。ということは、少しありという人も含めると実に9割の女性が独り暮らしの可能性を持っているわけです。だからやっぱり私たちは女性問題としてこの問題に取り組みなきゃいけないと思うんですね。

それからいったい何に困っているのかのベスト10を申し上げます。①倒れた時の通報問題、②入院・通院の介助問題、③自分が倒れたとき誰が介助するのかの問題、③(同率)買い物や家事の問題、⑤役所への諸手続きの問題、⑥収入の確保の問題、⑦財産・家計管理を誰に任せるのかの問題、⑧入院・手術の保証人を誰にするのかの問題、⑨住宅問題、⑩保険金の問題、とこうなっています。

①の通報の問題は歳を取ってからのだけの問題ではありません。先日、うちの会員で60そこそこの方が自宅でシャンデリアを拭いているときテールブルからおこちて骨折しちゃったんですが、そのとき

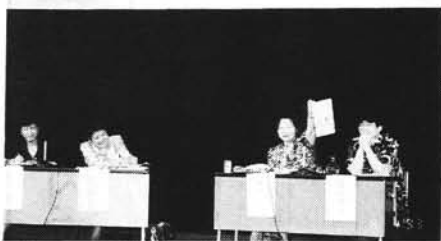
大変困ったそうです。電話しようにも痛くて痛くて電話のところまで行けない。昼間だから夫も子どもも出掛けて一人だし、どうにもならなかったというわけです。こういうことがありますから一人の人は若くても通報の問題は抱えているわけです。

③の買い物や家事の問題ですが、これは私、痛感しています。私は膝が悪くて重い物がかなり早く持てなくなってしまうんですが、そうなることややはり一番に買い物という家事ができなくなるでしょう。買い物はお金絡む問題ですからヘルパーさんが一番気を使う部分ですが、これでまた本人がボケたりしたらもっと大変な問題となります。

⑤の役所への諸手続きですがこれがまた大変なんです。日本の福祉は申請主義ですから。たとえばおばあさんが大腿骨複雑骨折で予後に退院させられちゃって、困ってヘルパー派遣要請の電話を役所へ掛けた。けれど「では申請に来てください」と言われるような状況です。行けるくらいなら電話を掛けないと思うんですけどね。行けないというと「隣人なり民生委員なりに頼んで申請に来てくだ

ニホンコ財団講演第150回
シニア・ハンドの会 会報第150号

記念シンポジウム



▲シンポジウム風景

さい。その節はハンコをお忘れなく」とくる。それで今私たちの会では役所への諸手続きを代行するボランティアを提案しています。そしてこのボランティアを通して社会改革していきたいと考えています。初めはボランティアが代行するけれど、そのうち手続きを簡素化してサービス出前ができるようにしていくことです。

とにかくこうしていろんな問題があるんですが、ではこの解決を図るにはいったいどういう政策が必要だかという結果も申し上げますと、なんとたって一番多いのが①公的援助サービスの確立、②地域の仲間作りの強化、③訪問看護体制の整備、④マンパワーの増

員・充実、⑤精神的自立の確立、⑥公的ホームの増設、⑦緊急時の連絡システムの確立、⑧定住できる住民と地域を作る、⑨低賃金のシニアハウスとなっています。

以上が第1回目の調査結果ですが、つい最近2回目の調査も行ないましたので、こちらの結果も少し紹介します。これはシニアシングルの方のみを抽出して行なった医療問題アンケートです。調査数215で96の回答を得ました。

この調査で私たちがもっとも問題としたのは、入院時の保証人の問題です。入院経験者に、入院承諾書というものを求められたかと聞くと、79%が求められたとの回答です。入院承諾書がいらなかったというところは17%しかありませんでした。また、手術承諾書は60%が要求されています。

こうした承諾書というのはシングルの女性にとって本当に困るんです。病院によっては「親等」つまり親か子と指定する例もありますが、そんな場合はどうしようもなくありません。下手するとシングルは入院も手術もできないことになるわけです。ある種の癌などは1カ月の期間が命の境目になった

りしますが、そうなると保証人がどうのこうのとゴタゴタやってくるうちに手遅れになってしまいうケースも考えられます。もしそうなっでしまったときは、一体どうするのでしょうか？

その人の人権をどういうふうに確保したらいいかということでも東京都では今、専門の弁護士をおく相談窓口を設けていますが、まだ法的改正には至っていません。

私などは、やはりきちんとした第三者機関を設け、「こういうときはこうしてほしい」という意志を伝え、それを実施してもらえようにしたいですね。私には子どももいますが信頼していません。でも。悪い意味で信用してない面もあるし一方でいい意味で信用していない面もある。わりと情が深い子だから、私が「もう死なせて欲しい」といっても生かされちゃうんじゃないかという思いがあるんです。だからこそきちんとした第三者機関が欲しい。

とにかく私たち一人一人がおまかせをやめるべきだと思います。おまかせの老いはやめる。自分の老いは自分で決定していくことが大事ではないかと思っています。

■司会——円より子

ありがとうございました。

さて最近、破綻主義というのがどんどん浸透してきました。これはある年数別居すると、一方が反対でも離婚成立という形になってしまふというものです。

ということは、もう法的にも、女性が夫の庇護の下に生きる時代ではなくなってきたるわけです。となると女性は皆、税金も年金も自分で払い、自分の老後は自分で生きていかなければなりません。

でもそうするためには、いつでも大学で勉強し直し、いくつになっても働けるという社会状況を作ると同時に、私たち自身の自立意識を高めていかなければなりません。

3人のパネラーの方々も、個をしっかりと確立してそれぞれに生きて欲しいと、そういう話でした。

先程の樋口さんのお話にも詳しくあったように、今私たちの前には様々な問題が山積しています。だからこそ私たちも声を大きくあげていきたいと思っています。そういう意味では今回はいいシンポジウムが開けたと思います。

3人のパネラーの方々本当にありがとうございました。(拍手)

各分科会内容報告

■司会——円より子

それではこれから2日間のまとめに入りたいと思いますが、その前に、各分科会で話し合われた内容の報告をお願いします。

第1分科会

シニアハウスについて

以前、ハンドの家についての意見の募集をしたところ、「シニアで老後を考える」という切り方をしたせいか、回答者の年齢層が少し高く、「すぐにでも入りたい」とか「将来的に入る可能性もあるので情



▲第1分科会風景

報を欲しい」という意見がかなり多く見受けられました。

そこで今回は、これからどういう勉強会や運動をしていけばいいのかという話をしたのでありますが、あいにく進展はありませんでした。

でもその代わり、生活科学研究所の近山さんから、住まい方とか、一番大事なのは気の合った人達が住むことだとか、様々な具体的事例をうかがうことができました。その点ではシニアハウスについて情報を得たい人にとっていい会になったのではないかと思います。

これでシニアハウスの具体的構想も少し浮かび上がってきましたので、今後は会員の方々への呼び掛けの輪を広げていきたいと思っています。そして私たちのネットワーク基地としてのハンドの家、シニアハウスの機能を持つハンドの家を作っていきたいと思っています。
(報告——シニアハウス事務局・向原恵子)

第2分科会

老後の仕事・生き方・恋愛・再婚

第2分科会は司会を入れて32名という大人数でしたので、どんなことを当面話したいかという紹介をしてもらっているだけで時間いっぱいになり、実りある話し合いはほとんどできませんでした。

集まったのは30代から70代までの広い年齢層の方々です。でも40代の方が圧倒的に多くいらっしました。

出てきた問題の中でもっとも多かったのはやはり仕事のこと。具体的には、自分が何をしたいのかわからない、現実に入ってくる収入のバランスがとれない、転職や再就職のため資格を取るにはどうすればいいかといったことです。

この他、生き方についての問題も出ました。落ち着いたら今度は「自分の人生って何だろう」「これでいいんだろうかという空しさを感ずる」等等です。体の問題もありました。やはり40過ぎるといろいろ更年期障害とか起きてくるだろうということです。また住居の問題もありました。

こんな中でちょっと印象的だっ



▲第2分科会風景

た話はボーイフレンドの話。恋人とまではいかなくても異性の友達が欲しい。でも出会う場がないという話でした。それに対しては、異業種交流会のようなものに参加すればいいのではないかとというアドバイスがありました。こうした場に出れば友達を見つかるだけじゃなく、自分の頭の刺激のためにもいいという話でした。

(報告——円より子)

第3分科会

子どもについて

子育てについていろいろな問題が話し合われました。今回は金住先生においでいただいていたので法律的なこと、社会資源について



▲第3分科会風景

お話をうかがうことができました。
ハンドの会合を続けてる中で一番、大きな問題になってきたのが面接交渉と養育費の問題です。今日もその話が出ました。「面接交渉権を定められているけれど自分の気持ちの中でしっくりいかず実際には行なわれていない」とか「気持ちの整理がつかず会わせたくない気持ちがある」という話です。これに関しては、「再度、調停に出して自分の気持ちを率直に述べ、面接交渉のノウハウや訓練をしてほしい旨を家裁に申し立ててはどうか。そういうことができるから」というアドバイスでした。

それから養育費については、やはり自分の権利をしつかり主張して戦っていくノウハウを身に付ける必要があるということでした。日本人は戦うことを避けて通る傾向があるし、調停に出したはいいいけど相手から言われるとわりとヘナってしまうことが多いということです。調停は自分たちのために利用するという考え方で利用したらどうかとおっしゃいました。

様々なグループ活動を していったほしい

円より子

どうも皆さんありがとうございます。
ハンドも150回を迎えました

が、以前ある方が「団体には清潔感というものがあつて感動しました」とおっしゃってくださいました。

私もハンドは本当にいい会だと思っています。規則正しいものはほとんどなく上下関係もない。入退会も自由だし、非常にゆるやかなネットワークだと思っています。

ただ、ゆるやかなだけに組織がびしっとまとまらず、力を発揮できない側面もあります。今後、制

後は成人に達した子どもについて親はどの程度の責任を負わねばならないのかというお話もありましたが、これについては「完全に成人に達した子どもについては親は一切何の責任もない、そこを明確にしない」ということでした。

要約すると以上です。
(報告—東京ハンドの会お世話係・)

度改革とか、女性が安心して子どもを置いて働きに行けるような社会作りに努めていかなければなりません、その力になれないという部分が出てくるのです。

ですから私としては今後、会員の皆さんの中にもっと大きなまとまりを作っていくだけだと思ったら思っています。

いろんなまとまりが考えられます。女のネットワーク作りを目指すまとまりもあるでしょう。仕事や生き方について話し合うのもある。子育てについての問題や悩みを話し合うものもある。男性との

交流を図るものもあっていいですね。とにかくそれぞれの関心に応じていろんなグループを作り、活動していっただけだとは思いますが、活動といっても堅苦しく考える必要はありません。作った物を持ち寄るとか、お互いに子どもを任せあって日曜日に映画を見に行きましようというのでもいいんです。ぜひそういうのをやっていくてください。

長くやればいいというものではありませんが「継続は力なり」という言葉もあります。ハンドをやっていくことで少しでも離婚に対する偏見を吹き払ってきたかもしれないし、離婚の法律や制度を動かして行く力に少しはなっているかなというところもあります。

ですからこれからも皆さんの力を得て、ハンドを続けていきたいと思っています。どうか皆さん、よろしく願います。

そしてこの2日間、本当にご苦労様でした。
これでニコニコ離婚講座およびハンド会報紙150回記念シンポジウムを終わらせていただきます。(記念シンポジウムは8月1日に開かれました)

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどんどんお寄せください。

逃げ出したい気持ちでいます

A・H (37歳・兵庫)

私は今とても暗い気持ちになっています。9月いっぱいまで職を失い、そして中1の息子が登校拒否です。どうしてもいいのかわかりません。私はなぜ生きているのか？私は弱気になっています。逃げ出したい気持ちです。私が頑張らないといけないことはわかっていす。でも頑張れないのです。ぐちゃを書いてしまいました。申し訳ありません。

復縁してもメタシとはいかず

K・T (？歳・群馬)

夫と復縁して「めでたし」というわけにいかず、なおのことハンドに支えられています。

離れていた期間、お互いに一人に慣れていたためベースが狂い、すごいケンカもたまにやります。

信仰も何も消えるような感じですが。私は力がないから、しっかりしてないから、子どもが自分の意志で決める時期まで毎日が訓練と、やっています。ストレス太

りがすごいです。

マイナスにならない結論を

M・K (？歳・京都)

ハンドの会報を初めて拝見し、勇気が出てまいりました。

7月中頃まで家業(料理屋)を私なりに手伝ってまいりましたが主人の何気ない一言で私、ブツン来てしまい、それ以来店に行くこともなく、今までの自分の人生って何だったのか考えたり、子ども達のことを考えたりで離婚について迷っております。京都の町は外からはとてもよく見えますが、まだまだサントリーのお茶の宣伝の世界です。私よりもっと悪い境遇にありながら別れようと思えない、信じられない女性、耐えている女性が山ほどいらっしゃいます。別れることは本当に大変なことだと思える日々ですが、自分にも子どもにもマイナスにならない結論を出したいと思っています。

少しずつ落ち着いてきました

(？歳・札幌)

だんだん落ち着いた暮らしにな

り、もう少し落ち着いて子育ても一段落したら(現在中2、小6、小1、5歳)少し活発になれるかなと考えています。体調を整えて1回くらいは東京へ行ってみようかなと思っています。また皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。

やりたいことを探しています

(？歳・千葉)

4月に結婚して娘とともに千葉へ移り住んで4カ月になります。彼は9歳年下で初婚。娘は6歳(年長)です。回りの大反対をおしきっての結婚でしたが、ほんの少しずつ、少しずつ、家族としての暮らしが回り始めています。

来年1月には新しい家族がもう一人加わるようになっていきます。若かった頃と違い、いろいろな出来事をおおらかな気持ちで受け止めることがちよびりできるようになってきたかな...と思います。彼も娘もそれぞれの立場で精一杯頑張っています。2人を暖かく受け止めていきたいです。そして私自身も新たにやりたいことを探していきたいと思います。

これからもハンドを応援していきます。また再婚家族の皆さんの

様子なども紹介してくださいね。

元気がなったらご返事します

M・H (？歳・大阪)

ハンド146号に載せていただいた者です。あの後、何人かの方から遠方からお電話やお手紙をいただいていたことに気がつきました。きちんとお返事を出さなくてはいいけないと思い気にはなっていたのですが精神的、肉体的ともに疲れてしまっていて余裕がなく、落ち着いてお手紙を書く力がわきませんでした。

2月に不調になってから遅くとも4月には裁判を起こすつもりだったのが、身近な不幸が重なってひどく落ち込んだり、私自身が裁判に向けて頑張ろうという気持ちになかなか出来なかったりで、のびのびになってしまいました。

でも3月以来、仕送りがまったく途絶えたこと、電話がかかってこないか家に踏み込まれはしないかとビクビクする毎日をこれ以上続けられないという思いで、やっとふっきれて9月には裁判を始めることになりました。

その間、大阪のハンドの方たちにも助言をいただいたり励ましてもらったりずいぶんお世話になり

ました。子どもたちも落ち着いて毎日を楽しく元気に過ごしていますし、やっと力がわいてきたようなこの頃です。うまく書けませんがこれから裁判に勝つために頑張っていると思います。そしてもう少し落ち着いたらお手紙やお電話をくださった方たちにきちんとお返事を書きますので、本当にごめんなさい。

お世話係から

■調停真つ最中マザーの会開催

(7歳・群馬お世話係)

9月26日に第1回群馬の会合を高崎市中央公民館で開催しました。集まったのは5名+子ども4名。子どもたちが2歳と4歳のため、彼等と共に時に走り回りながらではありましたが、自己紹介、それぞれが抱える悩み、会報作り、名簿作り等に関して話し合うことができました。離婚はそれを経過する時間によって考え方、感じ方、悩みの具合が微妙に変化してくるよう、離婚して11年目のNさん、離婚年数の浅い者が質問する……というような場面もありました。日々の生活が目まぐるしく忙しいのにもかかわらず集まってくだ

さった4名の方、当日は欠席であったけれど連絡を入れてくださった他の2名の方、どうもありがとうございました。

ところでこの他、離婚調停真つ最中のマザーの会を毎月、豊島区西池袋のエポック10で開いています。これは平成5年4月のニコニコ離婚講座で知り合った者が子連れで集まり、調停のグチをこぼしあうものです。行き詰まったときの息抜きにどうぞ。次回は11月上旬を予定しています。場所は豊島区男女平等推進センター(エポック10)保育室。詳しくは「までお問い合わせを(番号は10ページ)。

お便りください

■お電話待っています

(36歳・埼玉)

半年間の別居生活を経て、今年3月離婚に至りました。

同居していた姑、小姑の存在もさることながら、何よりも前夫との価値観の相違が大きな原因でした。小1の一人息子は、子どもが育つ場としてふさわしいヤマギシズム学園というところに入れることを条件に、前夫に親権を譲りました(前夫は学園に対して否定的

でした)。自然の中で多くの兄弟同然の仲間と共に生活している息子は、毎月会うたびごとにたくましく素直な子に成長しています。

ある週刊誌によると、元芸能人の三浦百恵さんの二人息子もいずれヤマギシズム学園に入るといふことですが、とにかく確実に年々、学園は増えています。私たち親も真剣に学園作りに関わっているのです。

調停において前夫との間で息子と会う日数は半分ずつと決めました。ところが最近、前夫に女性ができたと、前夫と息子が会う日にその女性を伴って「お母さん」と息子に呼ばせていることを知り、親権を取り戻す決心をしました。

経済的援助だけで学園に関わることをしない父親は息子に必要でないと確信しました。新たに調停を申し立て、強い母になって頑張ろうと思います。親権を取り戻すまで長い道になるかもしれませんが、埼玉周辺のハンドの会の皆様、こんな私のお話相手になっていただけてませんか。ご連絡お待ちしております。

■事務局便り■

♥神戸北区に「誰もが緑あふれる中で心安らげる福祉ゾーン」しあわせの村たんばの家」が完成したそうです。興味アリの方は問い合わせしてみてください(☎078-1743-8000) (雪野)

♥年賀ハガキ予約のピラが郵便局にお目見え。もうそんな時期。と驚く。庭の柿の実も不順な天候にめげず色づいてきた。秋まさに本番中。(小木)

♥私はドライブ大好き人間です。自分の好きな曲を聞きながら車を走らせるのは、ストレス解消にもってこいの薬です。(安住)

♥今年は夏がなかったなと思っているうちにもう秋が深まってきました。ゆっくり温泉に入って命の洗濯をしよう。(向井)

♥表紙に書いたように、事務所は11月末で閉めます。新しい電話番号・問い合わせ先等は次号でお知らせします。ハンドの隔月発行は来年からの予定です。今落ち込んでいますが、私はすぐ元気になりますから心配しないでください。(円)

